

第10回大会 パネル発表

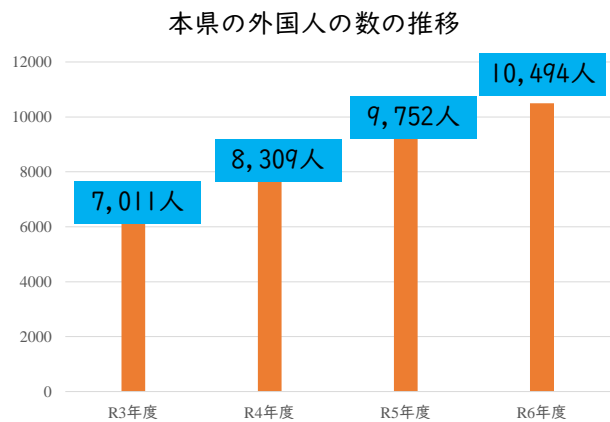
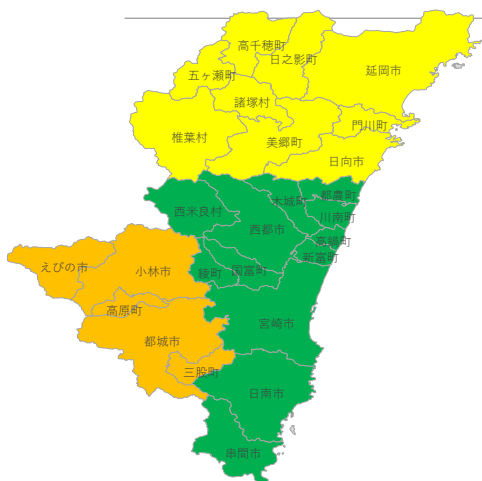
宮崎県の体制構築・連携の事例

- ・宮崎県教育庁 義務教育課 指導主事 山田 大輔
- ・宮崎市立学園木花台小学校 日本語教育指導教員 山崎 努
- ・宮崎国際大学／宮崎子ども日本語教育研究会 早瀬 郁子

1

1. 宮崎県の特徴：宮崎県教育委員会より

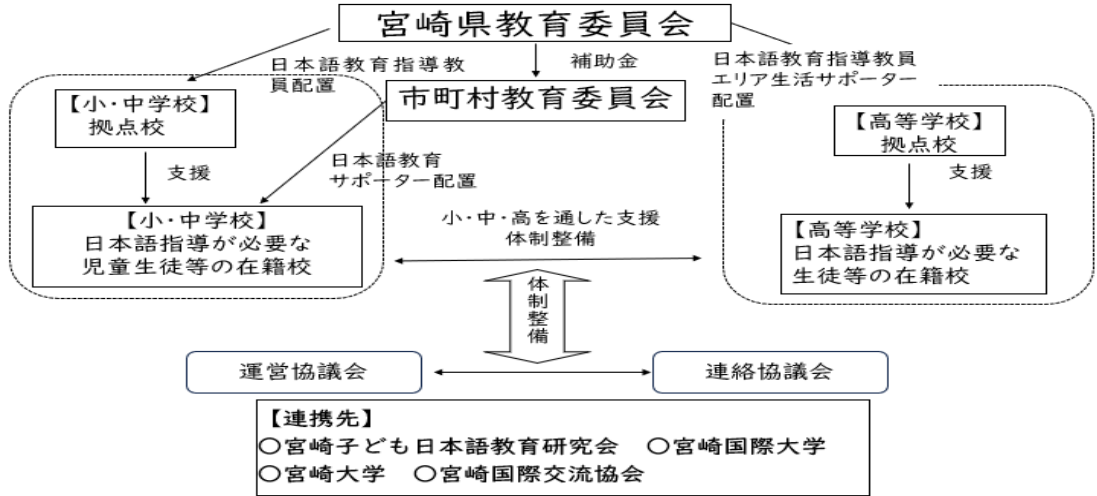
1) 本県の現状



2

1. 宮崎県の特徴：宮崎県教委より

2) 本県の取組



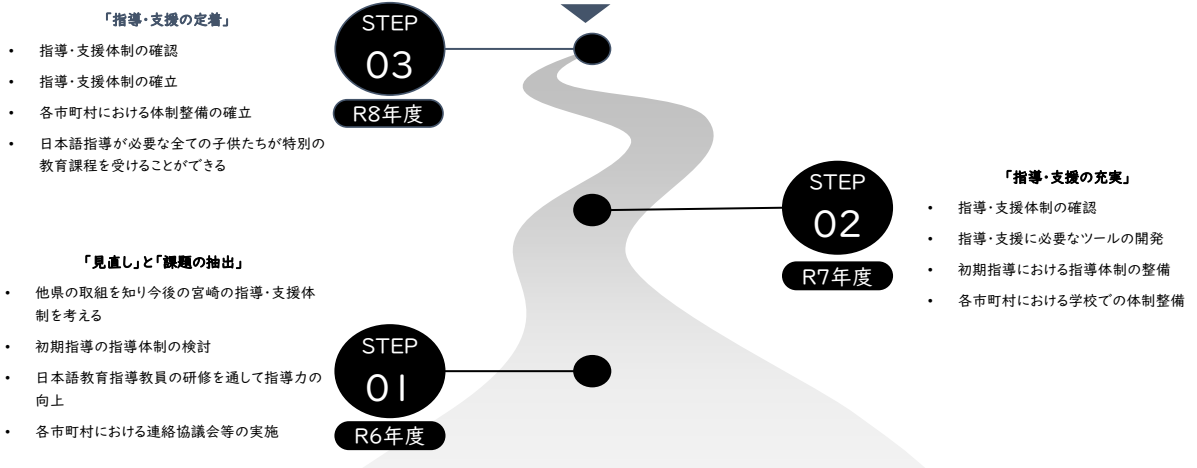
5

1. 宮崎県の特徴：宮崎県教委より

2) 本県の取組

日本語指導の指導・支援体制の確立

～学校全体で全ての児童生徒に応じた教育機会の確保～



6

1. 宮崎県の特徴：宮崎県教委より

2) 本県の取組

今年度の成果

- 運営協議会・連絡協議会の設置
- 関係機関とのつながり
- 日本語指導に係る研修の実施



7

1. 宮崎県の特徴：宮崎県教委より

3) 今後に向けて

次年度に向けて

- 市町村における指導・支援体制を確立するための支援
- 関係機関と連携できる取組
- 指導者の育成と指導力の向上

8

2. 拠点校の日本語指導：宮崎市立学園木花台小学校

1) 拠点校の指導体制

宮崎市立学園木花台小学校の特色



- 全校児童315名のうち約10パーセントの児童が外国にルーツを持つ児童
- 17名が日本語教育支援対象児童

日本語指導教員の役割

- 1 本校の支援体制及び日本語指導の充実
- 2 管内の小・中・義務教育学校の支援

9

2. 拠点校の日本語指導：宮崎市立学園木花台小学校

2) 本校の支援体制づくり

(1) 職員研修の実施（年2回）

- 指導に係る共通理解の促進
- 授業公開（主題研究とタイアップして）



(2) 地域との連携

- 外国籍家庭への学用品提供（地域の団体と連携の下）
- 宮崎大学との転入児の受け入れに関する連携や共同学習

(3) 教材の選定

10

2. 拠点校の日本語指導：宮崎市立木花台小学校

3) 管内の小・中・義務教育学校の支援

(1) 宮崎市内の小中学校の視察、支援

- 現状の聞き取りと支援体制づくりに関する助言
- 授業づくりについての支援

(2) 教育事務所との連携

- 情報共有

11

2. 拠点校の日本語指導：宮崎市立学園木花台小学校

4) 成果

- 総合的な判断のもと、個に応じた支援が可能になった。
(以前までは、個別の指導計画の作成は管理職、保護者への個別面談等は、通訳担当職員や外国語専科教員、実際の指導は、日本語担当職員と複数の方々が行っていたため)
- 地域との連携を強化したことで、より持続可能な支援体制づくりができ始めている。
- コーディネート機能をもつことにより、管内のどの学校においても、一定の質が担保された日本語指導を行う基盤の構築に向けて、スタートラインに立つことができた。

12

2. 拠点校の日本語指導：宮崎市立木花台小学校

5) 課題

- 本校の更なる指導・支援体制の構築
(日本語指導教員の役割を校務分掌の中に位置付ける。)
- 日本語指導教員の役割の校外への周知とそれに伴う人材の確保
(県教育委員会等との連携強化)

13

3. 行政との連携：宮崎子ども日本語教育研究会

宮崎子ども日本語教育研究会（宮崎子日研）

3 大学連携 2023年に立ち上げ

宮崎大学、宮崎公立大学、宮崎国際大学の日本語教育専門家を中心に

【目的】

本会は、宮崎県に在住する外国につながる子どもおよびその保護者が、社会の中で自分らしく生きることができる存在として、主体的に成長する過程を支えることを目指す。

また、様々な団体と連携し、多文化共生社会における子どもの人権擁護・健全育成および社会教育の推進に寄与することを目的とする。

【事業】 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 子どもの日本語支援事業
- (2) 日本語指導員の養成・研修事業
- (3) 子どもの就学・進路支援事業
- (4) 子ども・保護者の交流事業
- (5) その他、本会の目的達成に必要なこと

14

3. 行政との連携：宮崎子ども日本語教育研究会

1) 県教委との連携

① 宮崎県下の小・中学校の外国人児童生徒実態調査

文科省委託事業「児童生徒実態把握のためのネットワーク構築」（弘前大学 研究部会）の中でアンケート調査を実施し、宮崎県下の外国につながる子どもの実態調査を行った。

👉 来年度は、アセスメントの実施を

② 日本語教育指導教員研修会

県教委の依頼を受け、日本語教育指導教員研修会の講師として5回研修会を実施

👉 外国につながる子ども指導の基本的知識の共有

③ 2024年度 第1回連絡協議会

第1回「連絡協議会」の講師として、子どもの日本語についての講演を実施

第1回「運営協議会」に参加

👉 日本語教育の情報共有

15

3. 行政との連携：宮崎子ども日本語教育研究会

2) 市教委との連携

① 受け入れの手引き（宮崎版）作成協力

宮崎市版「外国人児童生徒受入の手引き」作成協力

👉 将来的に、宮崎県版を！

② 学生日本語サポーター派遣

日本語指導が必要な児童生徒へ、授業時の教科学習支援として「学生日本語サポーター」を、児童生徒の状況に応じて週に1~3回派遣（宮崎国際大学 学生ボランティア）

⇒ 今年度は試行期間として短期間の支援であったが、今年度の成果を受け、より充実したものに変更するよう、市教委と協議

👉 大学生の学びと、子ども支援の充実を！

16

3. 行政との連携：宮崎子ども日本語教育研究会

3) 宮崎子日研主導の活動：県教委・市教委との連携の中で

① 日本語指導者マニュアル（宮崎版）の作成

目的：学校現場で、外国につながる児童生徒へ日本語指導（特に初期指導）をする指導者の指針となるマニュアルの作成

👉 現場での活用促進

内容：・外国につながる子どもたちの日本語指導について

- ・「サバイバル日本語」「日本語基礎」のテキスト選定、目標の指導時間、指導例等を記載
- ・「日本語と教科の統合学習」を行う際に参考となる教科書一覧表の作成、（国語、算数、英語）、「さんすうのことば」等



② 日本語指導者研修会の実施

昨年度から実施（2023年度は3回実施）

今年度は、県教委の連絡協議会の補填事業の意味合いで2回実施

目的：日本語指導者のスキルアップと情報交換、日本語学習サポーター養成

👉 日本語指導者の学習・情報交換の場として継続。育成も必要

17

4. 今後の課題

宮崎県の日本語指導の充実に向け

子どもの教育環境整備のため…

○ 指導・支援体制の充実（市町村への支援、学校内の体制構築）

○ 関係機関と連携できる取り組み

研修会の実施：指導者の育成と指導力の向上、指導者間の連携

日本語指導の必要性の周知：学校内／学校間／地域での連携

18